

# 平成24年度 事業報告書

# 目次

<b>I 事業総括</b>	1
<b>II 事業報告</b>	
1 調査啓発事業	3
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	5
3 資源化事業	8
(1) 剪定枝等処理事業	8
(2) びん・缶・ペットボトル選別事業	10
(3) 施設管理受託事業	12
① ごみ資源化工場施設管理事業	12
② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	14
③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	16
④ 札幌市リサイクル団地管理事業	18
(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業	20
4 事業系ごみ収集運搬事業	22

# I 事業総括

当社は、事業系ごみ収集運搬事業、びん・缶・ペットボトル選別事業などの資源化事業、調査啓発事業等の10の事業を実施している。

平成24年度の事業運営は、札幌市の処理手数料改定に伴う経費増加などにより厳しい経営環境であったが、各部門での経費縮減などの経営努力、事業系ごみ収集量の安定化などにより当初計画より収支が改善した。

資源化事業のうち、自主事業である「剪定枝等処理事業」は、計画を上回る約6千tを受け入れ、チップ化して堆肥の原料や地域熱供給の燃料としてリサイクルした。札幌市から選別を受託している「びん・缶・ペットボトル選別事業」では、計画量に見合う約36千tを処理し、施設管理を受託している「ごみ資源化工場」「中沼プラスチック選別センター」「中沼雑がみ選別センター」では、安定した施設運営を行い計画通りのごみを処理した。

事業系ごみ収集運搬事業は、札幌市内全域の事業系ごみ収集を一元的に行っており、平成24年度は、計画量を超える1,054千 $m^3$ のごみを的確に収集し、清掃工場やリサイクル施設へ運搬した。各事業者に対しては、ごみ減量・リサイクル推進に向けた提案営業を積極的に展開し、57千 $m^3$ の生ごみを分別収集し飼料や堆肥の製造施設へ搬入したほか、木くずや紙くず等の資源化ごみ140千 $m^3$ 、不燃用プリペイド袋26千 $m^3$ 、びん・缶・ペットボトル19千 $m^3$ 、剪定枝1千 $m^3$ を分別収集し、それぞれリサイクル施設へ運搬した。その結果、ごみ総収集量に対するリサイクル率は約23%となり、札幌市が定める「スリムシティさっぽろ計画」の重点施策である事業者による自主的な資源化の促進に貢献した。

一方、平成24年度は、新しい公益法人制度の「一般財団法人」に移行した初年度で、会計基準が変更するなどの事務的な負担増加はあったが、円滑に新制度に対応している。

## 重点項目の実施結果

### (1) 顧客満足度の向上の徹底

「信用・信頼を得る仕事の実践」を年間スローガンとして、顧客満足度の向上を目指して、CS活動に取り組んだ。

### (2) 資源物の分別及びリサイクルを推進する提案型営業の徹底

大型商業施設、学校などの顧客に対して提案営業を通じて具体的な分別によるコスト削減とリサイクルの重要性を周知することにより、資源物の分別やリサイクルを推進した。

### (3) 札幌市のごみ処理手数料改定に伴う諸準備

札幌市の一般廃棄物処理手数料改定に伴う当社の収集運搬料金改定について、顧客約6千件に対し平成24年6月及び10月に改定の案内、平成25年1月から契約の更新を行い、顧客のご理解を得て大きなトラブルもなく平成25年4月1日の料金改定を完了した。

### (4) 公事業の理解を促す顧客・市民への積極的な情報発信

平成24年10月に事業概要250部及び平成25年3月に広報誌アンパス8,500部を発行し、顧客や関係機関に配布するとともに随時ホームページの改定を行い情報発信をした。また、ごみ減量・リサイクルの啓発を目的に環境広場さっぽろ2012などのイベントに参加した。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減の徹底

事業系ごみ収集運搬事業では、収集量の減少により効率が低下していた食用缶収集について、収集ルートなどを集約し減車を実施した。引き続き、他のごみ種についても収集量に見合う効率化に向け検討を進めている。

また、施設管理では、節電のため中沼及び駒岡資源選別センターにおいて「夏季需給調整実量特約」を北海道電力と締結し電力の節減に努めた。

(6) 継続的な環境負荷の低減を推進するため環境マネジメントシステムの的確な運用

I S O14001 に沿う環境マネジメントを運用し資源の節約やエネルギーの節減に効果を上げてきたが、更新時期を迎えるのを機に、平成25年2月に北海道環境マネジメントスタンダード（H E S）の認証を取得した。

(7) 一般財団法人としての円滑な業務執行

平成24年4月1日に一般財団法人への移行を完了し、新制度による初めての法人経営であったが、会計基準が変更するなどの事務的な負担はあったものの円滑に新制度に対応することができた。

## Ⅱ 事業報告

### 1 調査啓発事業 (決算額 40,820,668 円)

#### (1) 調査研究事業

##### ① ごみ重量計量システムの実証実験

平成 23 年度から重量計量システムを搭載した収集車両の計量精度の検証及び排出者毎のごみ重量データの収集・蓄積を行っている。平成 24 年度は、7 台の車両により実証試験を実施した。

平成 25 年度についても、引き続きデータの蓄積を行う。

##### ② 資源ごみ残さの低減に関する調査研究

平成 23 年度に中沼資源選別センターで実施した「不燃残さ削減のための調査」に引き続き、平成 24 年度は、中沼・駒岡の両選別センターで資源ごみ残さ削減の取組みを行った。中沼資源選別センターで、他都市の事例を参考にして、びん割れ防止対策に関する実証試験等を実施し、その研究成果の一部を中沼・駒岡資源選別センターの施設整備に活用した。

その結果、残さ搬出量は、中沼で 8～3 月実績 15.3%削減、駒岡で 12～3 月実績 4.9%削減を達成した。

##### ③ 固形燃料 (RDF) 生産に関する調査研究

ごみの減量・リサイクルに伴い、ごみ資源化工場の木くずや紙くずの受入量が年々減少し、これに伴って固形燃料の生産量も漸減している。このため新たな原料確保に関する調査を平成 23 年度から実施している。

平成 24 年度は、木くずの代替原料として、剪定枝類や山本処理場に保管されている枝・葉・草を利用した固形燃料の生産実験を実施した。この内、剪定枝類を利用した固形燃料については、北海道地域暖房㈱のボイラー設備で燃焼試験を実施し、同設備での利用について問題がないことを確認した。

また、枝・葉・草については、混合比率を変化させて生産実験を行い、固化状態の確認と成分分析を実施した。この枝・葉・草を利用した固形燃料についても、平成 25 年度に北海道地域暖房㈱のボイラー設備で燃焼試験を行う。

その他、現在残さとして排出されているシュレッダーくずと廃プラスチックについても、原料として再処理する方法に関する調査を実施した。

##### ④ 剪定枝チップの堆肥化実験

剪定枝チップの有効利用と新たな販路の開拓を進めるため、剪定枝チップの堆肥化実験を、公益財団法人札幌市公園緑化協会と共同で実施した。

平成 24 年度は、剪定枝チップを百合が原公園に搬入して発酵状態の確認や水分測定を行い、堆肥の熟成状況を確認した。

平成 25 年度は、引き続き熟成状況の確認と、完成した堆肥を使用した生育試験を行う。

##### ⑤ 資源ごみの組成・形状調査等

資源ごみの収集量の増加やごみ質の変化などによる各リサイクル施設への影響を分析するため、資源物等の組成調査を実施した。

その他、固形燃料と剪定枝チップの成分分析及びダイオキシン類の分析、各リサイクル施設のボイラーばい煙の測定等を実施し、そのデータを集積した。

(2) 普及啓発活動

ごみ減量及びリサイクル、公社の事業内容についてホームページや各種イベントにより普及・啓発を行った。

① 公社事業概要等の発行

- i) 公社の事業方針、事業内容及び実績を取りまとめた「事業概要」250部を平成24年10月に発行し関係機関や市民に配布した。
- ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を取りまとめた「平成23年度データ集」150部を平成25年3月に発行した。
- iii) ホームページを適宜改定し、公社事業の最新情報を発信した。
- iv) 排出事業者のごみの分別やリサイクルに関する取組みとリサイクル施設の紹介を掲載した情報誌「アンパス第11号」8,500部を平成25年3月に発行し、顧客や市民に配布した。

② 各種イベントへの参加

- i) 環境ビジネスの発展や市民に対する環境意識の向上を目的としたイベント「環境広場さっぽろ2012」に出展し、公社事業の紹介を行った。
- ii) 「ミニさっぽろ2012」「かんきょうみらいカップ2012」「第64回さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛した。

③ 見学者の施設案内

ごみの適正処理やリサイクルの普及活動として各施設への見学者を受け入れている。平成24年度は、市内の小学4年生で「ごみ・リサイクル」を学習するカリキュラムの見学者を含めて7,360名の見学者を案内した。

## 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 53,150,055 円)

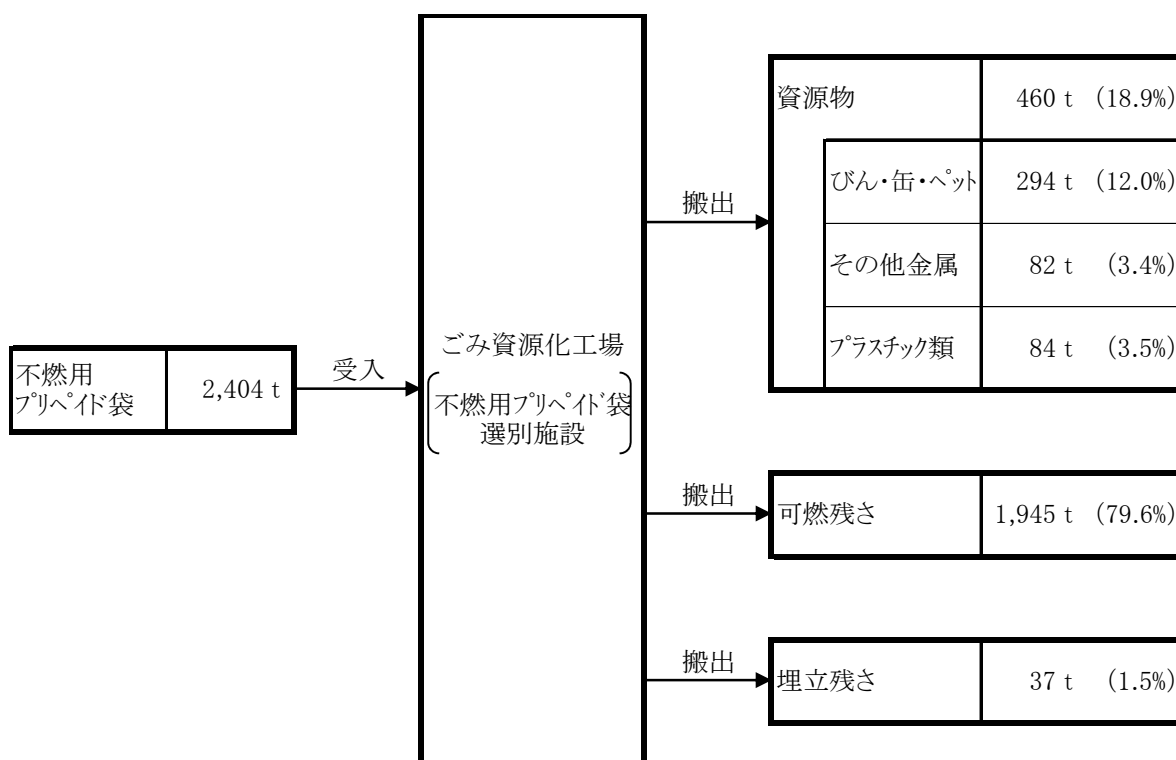
平成 21 年 4 月より、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルなどを選別し、埋立量の低減及びリサイクルを推進している。

### (1) 処理実績

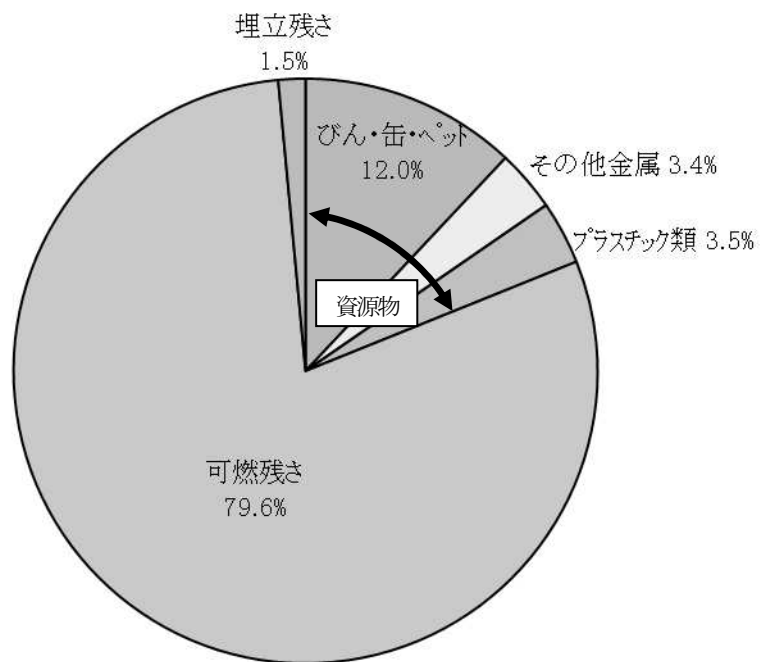
平成 24 年度の不燃用プリペイド袋受入量は、計画量 2,400t に対し 2,404 t で、前年度 2,424 t に比べ 0.8% の減少となった。搬出量は 2,442 t で、資源物 460 t と可燃残さ 1,945 t が選別された結果、埋立残さは 37 t となり前年度 62 t に比べ 40.3% の減少となった。

不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルは選別後、リサイクル業者に引き渡し、一斗缶等のその他金属は業者へ売却、ビニール類等の軟質系プラスチック類は固形燃料の原料として再資源化を図った。

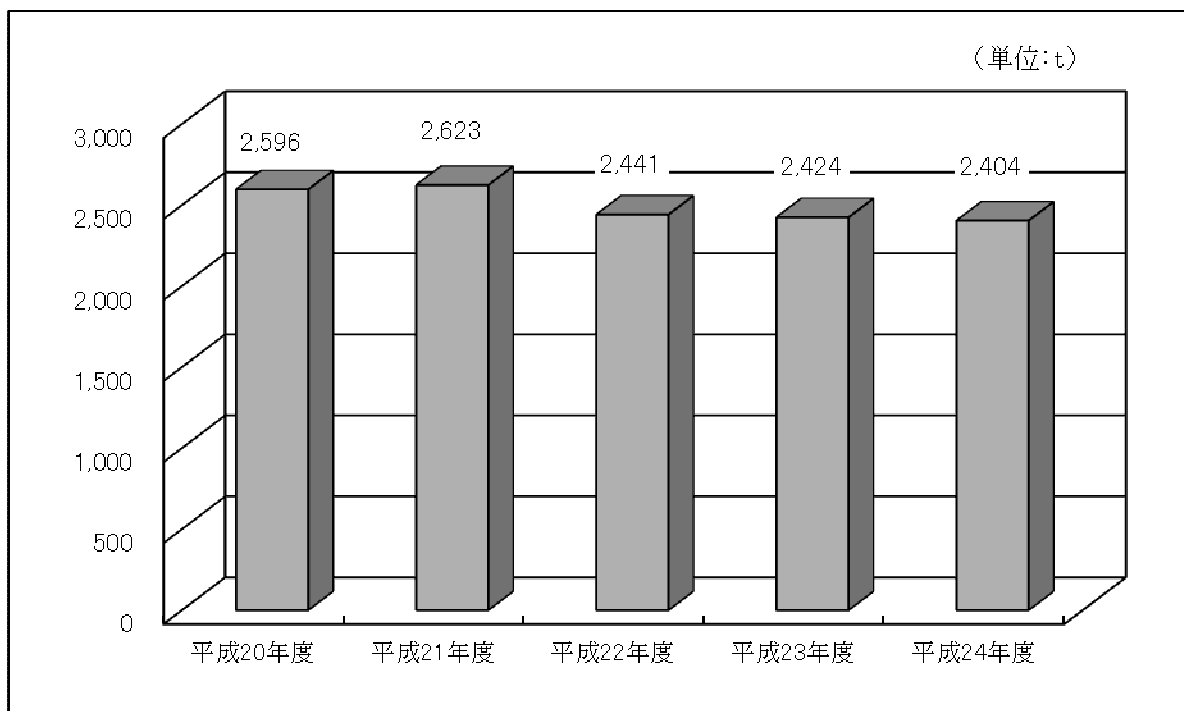
【図 2-1 平成 24 年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図】



《グラフ 2-1 平成 24 年度 資源物・残さ搬出割合》



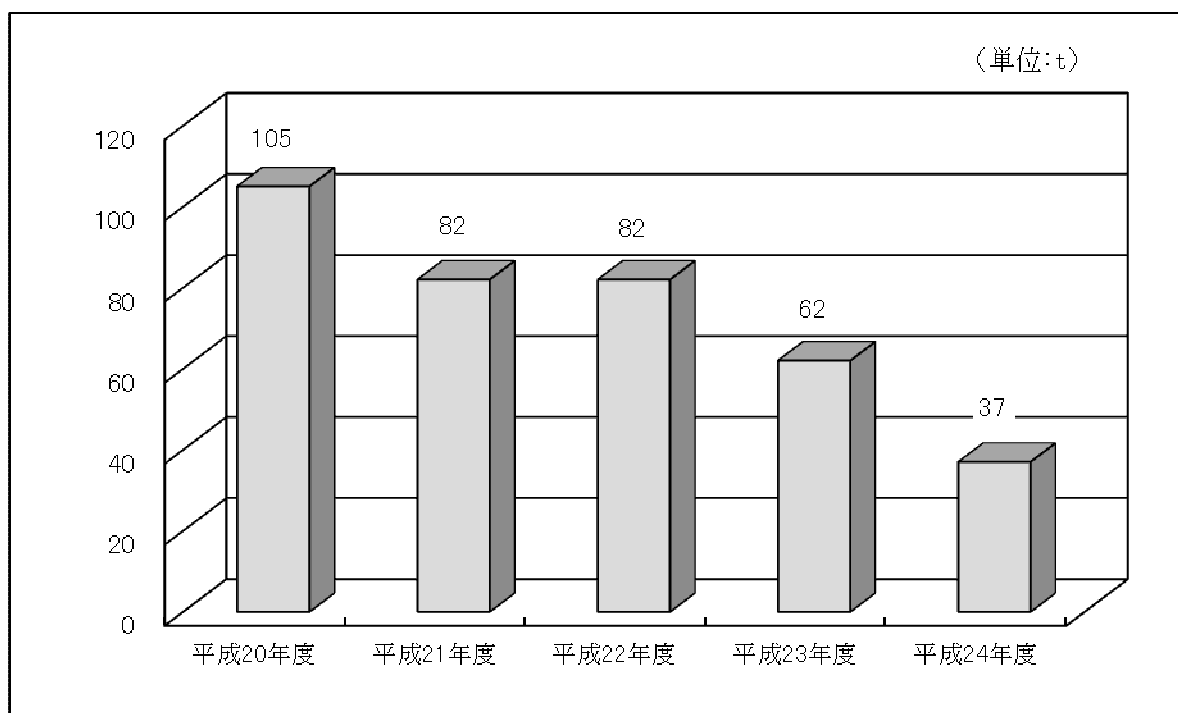
《グラフ 2-2 不燃用プリペイド袋受入量 (年度別)》



※ 平成 20 年度は、選別試験での受入量



《グラフ2-3 埋立残さ搬出量（年度別）》



※ 平成20年度は、選別試験での搬出量

### 3 資源化事業 (決算額 1,064,516,047 円)

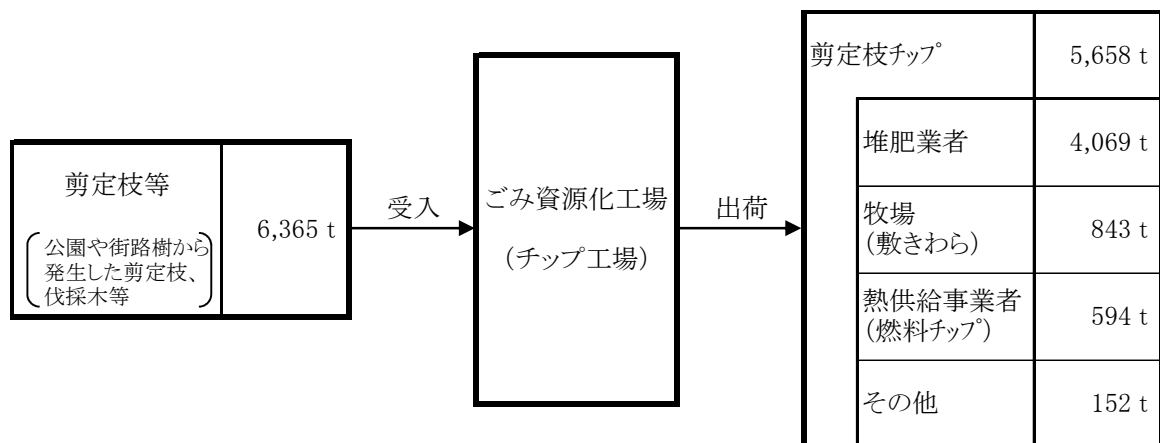
#### (1) 剪定枝等処理事業 (決算額 49,844,118 円)

平成20年10月から実施している当社の自主事業で、公園や街路樹等から発生した剪定枝、伐採木等を、チップ工場破碎施設で約45mmの大きさのチップに加工して、堆肥や畜舎の敷きわらなどとしてリサイクル業者及び酪農家に販売している。

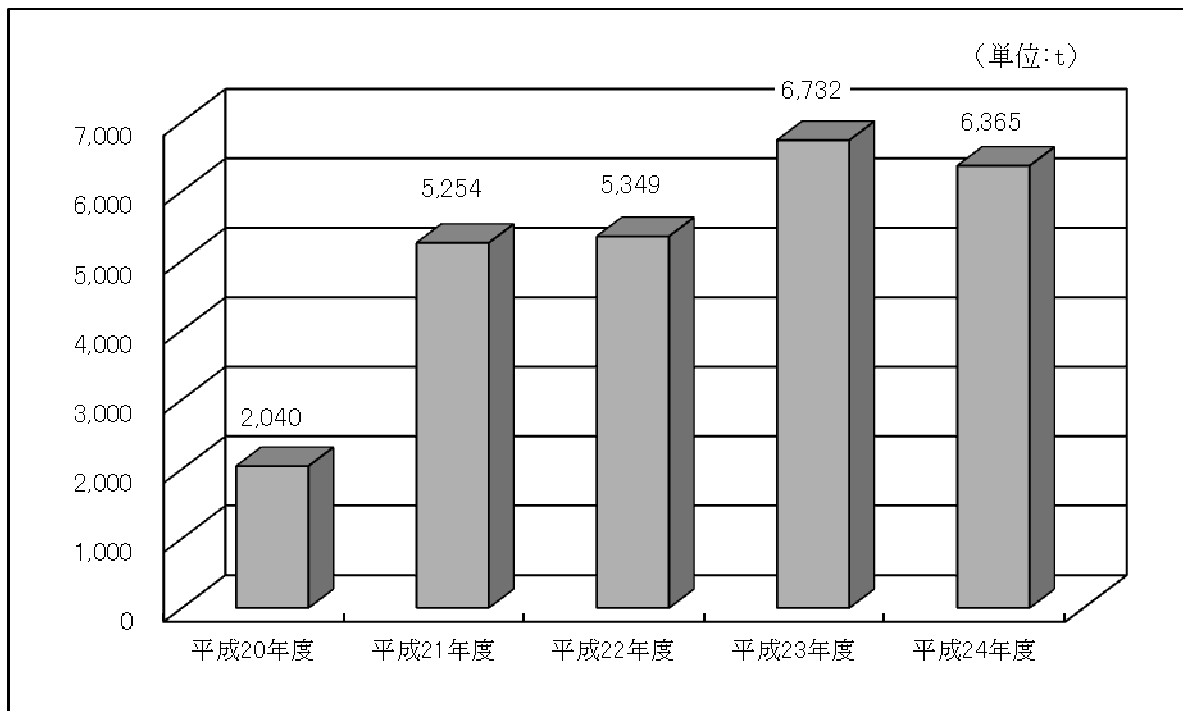
平成24年度の剪定枝等受入量は、計画量4,800tに対し6,365tで、前年度6,732tに比べ5.5%の減少となった。

剪定枝等チップの出荷量は、計画量4,700tに対し5,658tで、前年度5,710tに比べ0.9%の減少となっている。

【図3-1 平成24年度 剪定枝等処理実績フロー図】

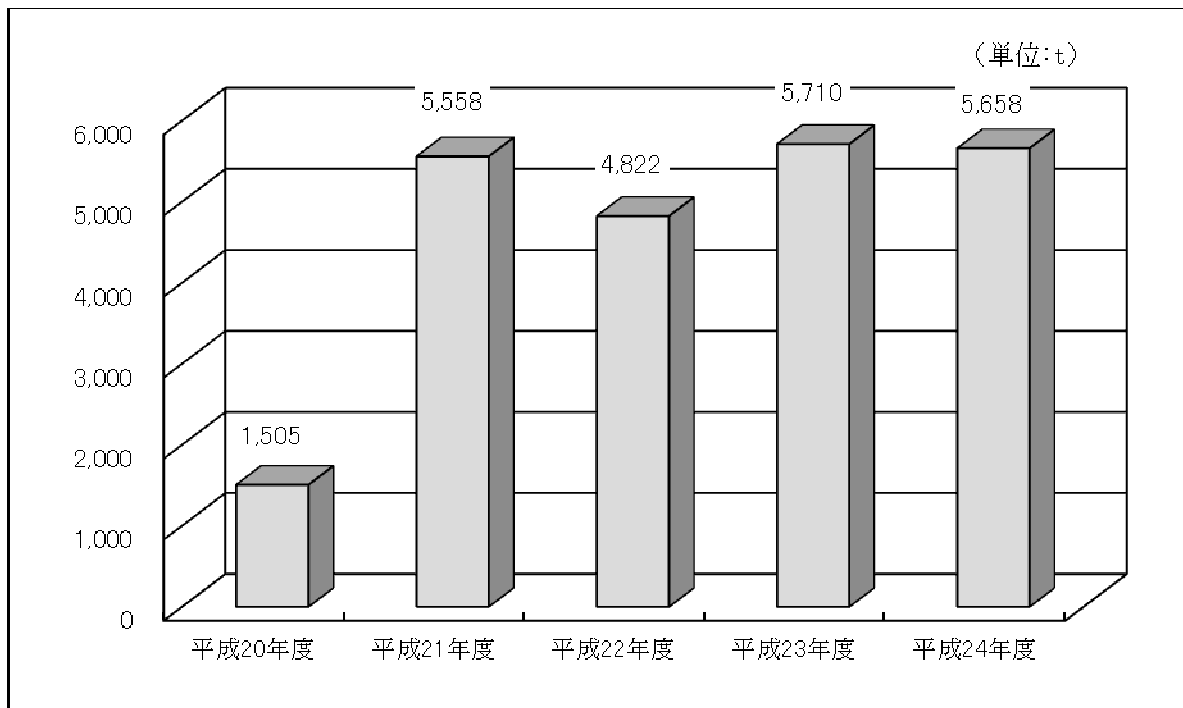


《グラフ 3-1 年度別剪定枝等受入量》



※ 平成20年度は、10月～3月までの受入量

《グラフ 3-2 年度別チップ出荷量》



※ 平成20年度は、10月～3月までの出荷量

(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 878,728,420円)

札幌市が分別収集している家庭系のびん・缶・ペットボトルの選別(受託事業)と、当社が収集している事業系のびん・缶・ペットボトルの選別(自主事業)を、中沼資源選別センターと駒岡資源選別センターで実施している。

中沼資源選別センターでは、札幌市が平成21年7月から「燃やせるごみ・燃やせないごみ」を有料化したことに伴い家庭系資源物が増加したが、二交代制の導入などの運転時間の延長や、中沼と駒岡両施設の効率的運用により対応している。

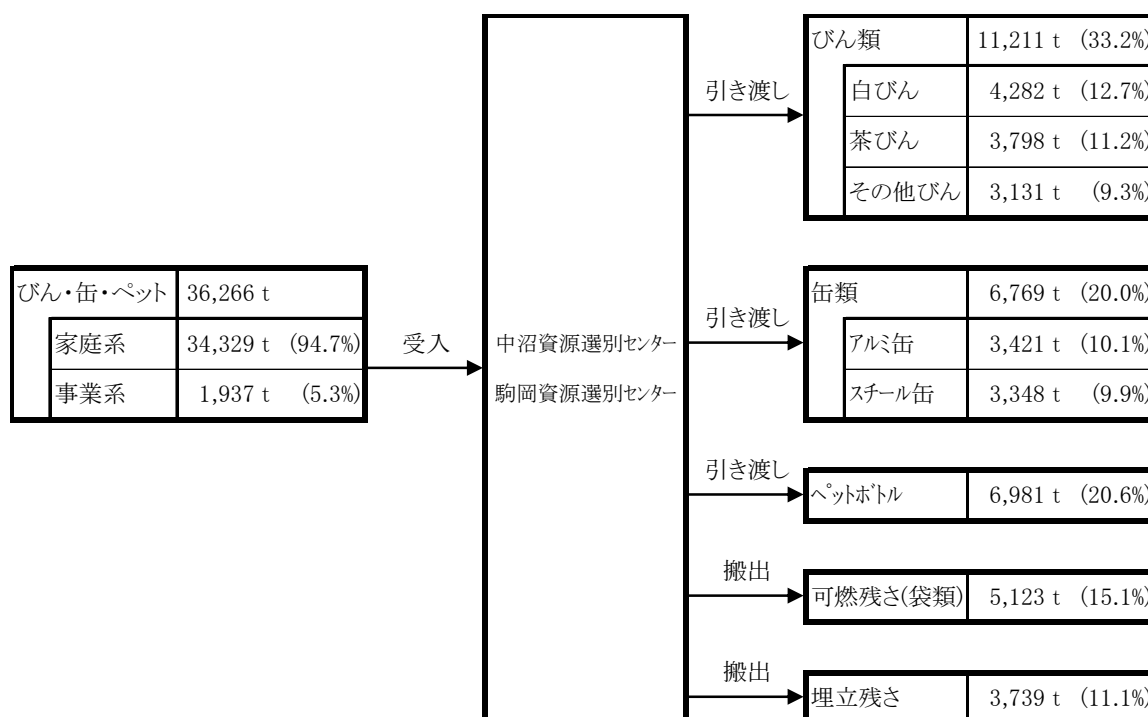
平成24年度の資源物の全体受入量は、計画量35,900tに対し36,266t(家庭系 34,329t、事業系 1,937t)であり、選別搬出された資源物は全体計画量 33,100tに対し、びん類 11,211t(白びん 4,282t、茶びん 3,798t、その他びん 3,131t)、缶類 6,769t(アルミ缶 3,421t、スチール缶 3,348t)、ペットボトル 6,981tであった。

選別された資源物は、次のようにリサイクルを図った。

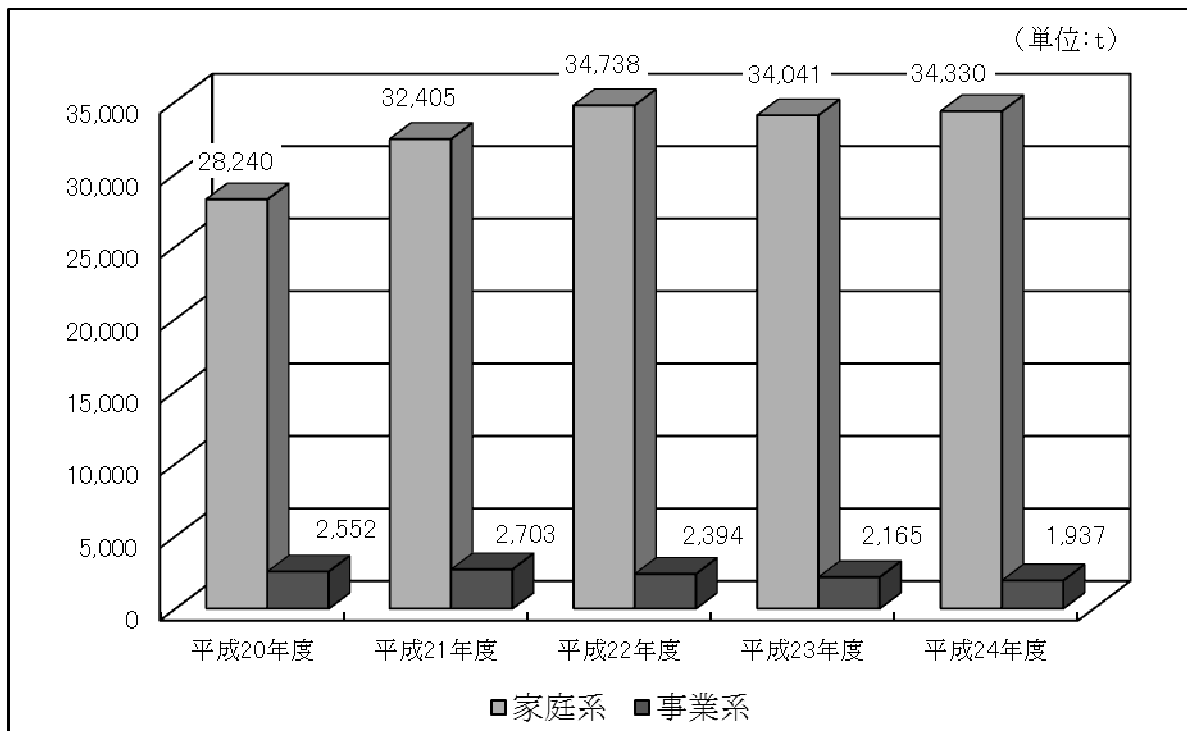
- ① びん類については、白・茶・その他びんに分け、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者に引き渡し、それぞれ再生利用を図った。
- ② 缶類については、家庭系(市)及び事業系(公社)ともに、リサイクル事業者に引き渡し再生利用を図った。
- ③ ペットボトルについては、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者に引き渡し再生利用を図った。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用の場を提供するために福祉団体に業務を委託している。

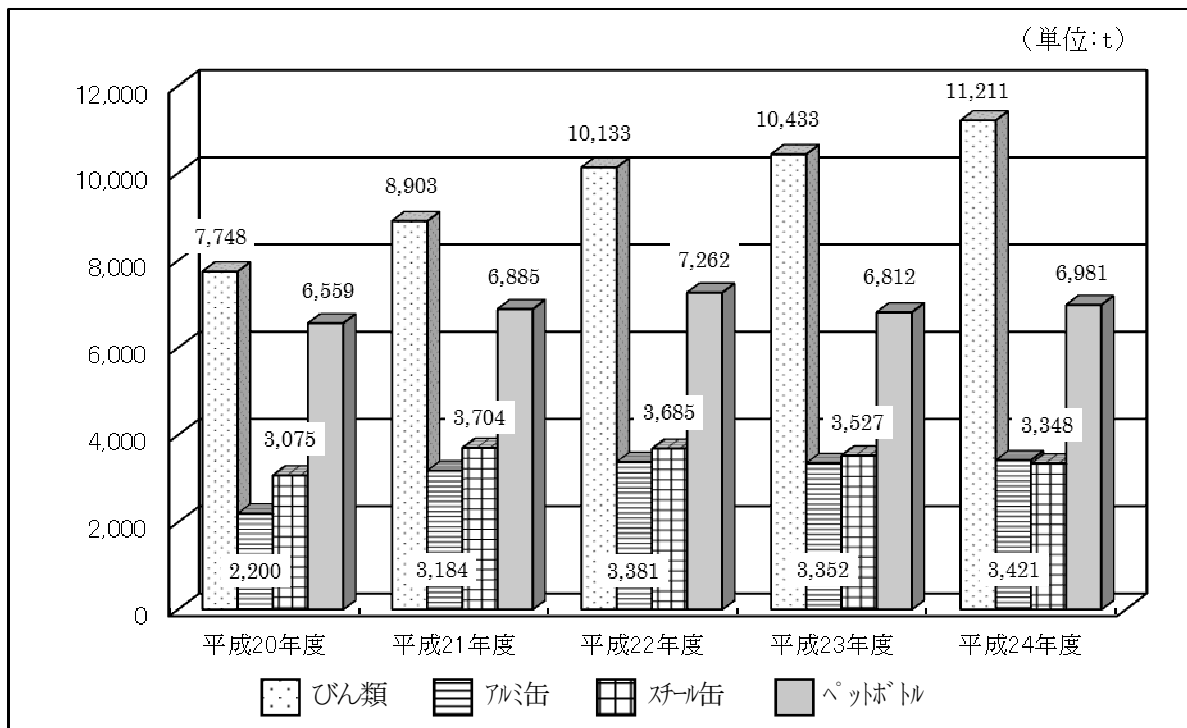
【図3-2 平成24年度 びん・缶・ペットボトル選別センター選別実績フロー図】



《グラフ3-3 びん・缶・ペット受入量（年度別）》



《グラフ3-4 資源物搬出量（年度別）》



(3) 施設管理受託事業 (決算額 118,507,817円)

平成24年度は、札幌市の4施設の施設管理(総括管理)業務を受託し、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を実施した。

① ごみ資源化工場施設管理事業 (決算額 56,609,555円)

ごみ資源化工場は、札幌市の一般廃棄物処理実施計画に基づき、主に事業系の木くず、紙くず、廃プラスチックを選別破碎後、圧縮成形して固形燃料(RDF)を生産している。

当社は、ごみ資源化工場の施設運営に係る監督等の総括管理業務及び搬入ごみの計量業務を含む施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託事業として実施した。

i) 処理実績

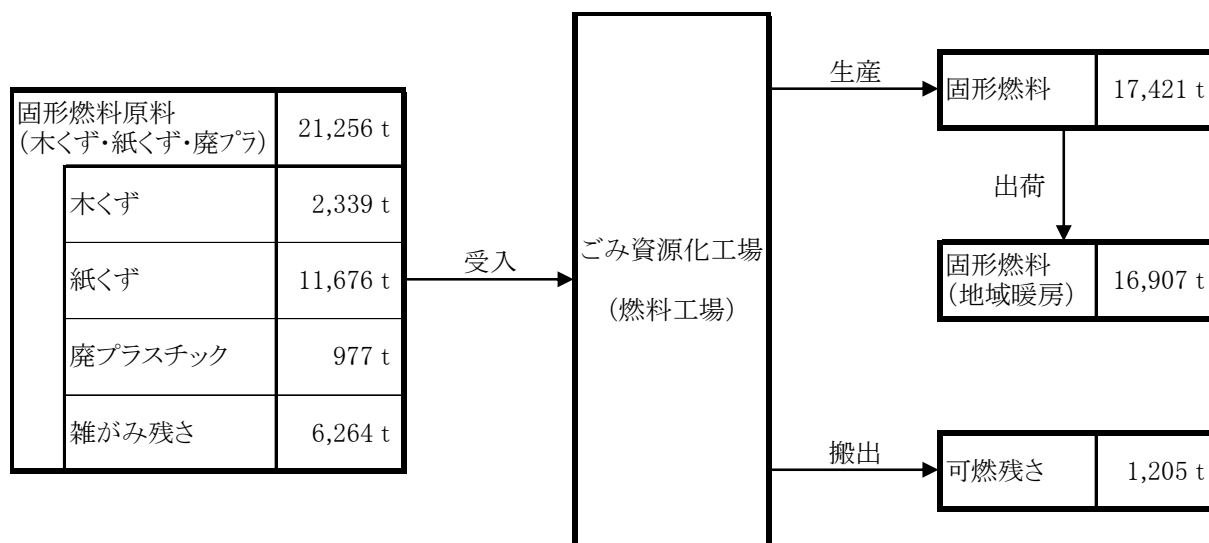
平成24年度のごみ受入量は、計画量20,700tに対し21,256tで、前年度21,720tに比べ2.1%の減少となった。受入量の内訳は、木くずが2,339t、紙くずが11,676t、廃プラスチックが977t、雑がみ残さが6,264tであった。

固形燃料の出荷量は、計画量17,600tに対し16,907tで、前年度19,229tに比べ12.1%の減少となった。また、生産した固形燃料は、全量を北海道地域暖房株式会社に出荷した。

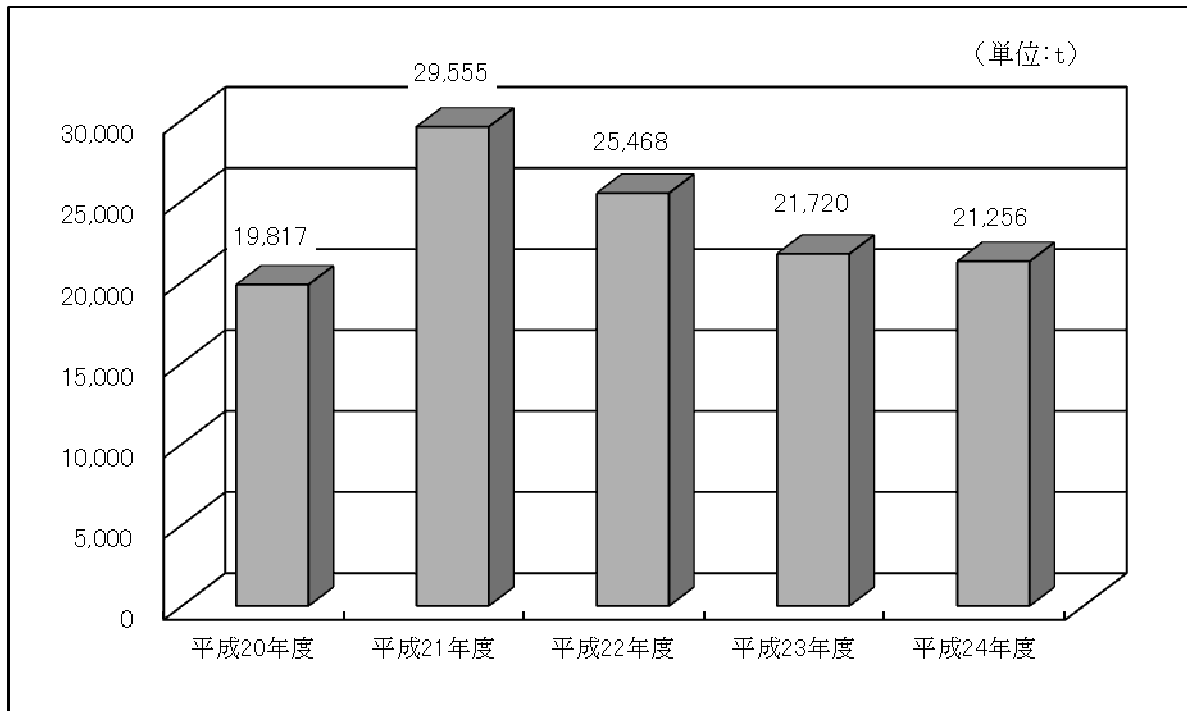
ii) 受入量及び出荷量

ア	ごみ受入	21,256 t	15,047 台	〔 一般廃棄物 : 13,524 台 産業廃棄物 : 1,523 台 〕
イ	固形燃料出荷	16,907 t	1,894 台	
ウ	残さ搬出	1,205 t	316 台	

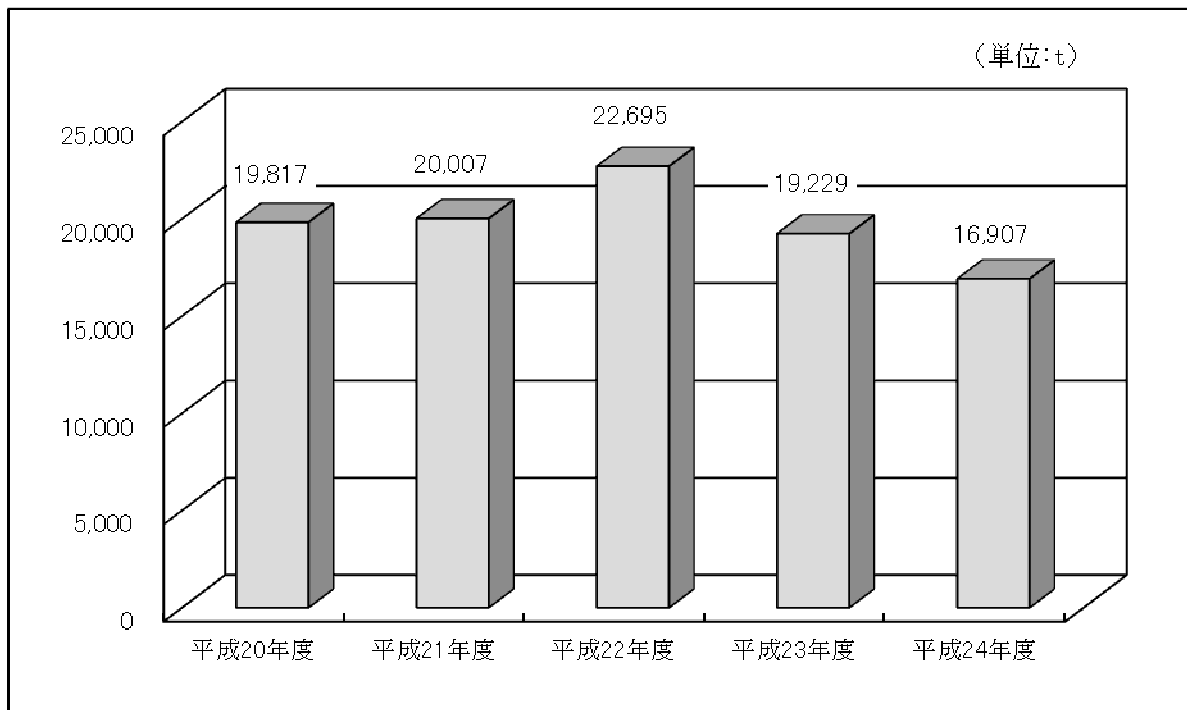
【図3-3 平成24年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



《グラフ3-5 ごみ資源化工場受入量（年度別）》



《グラフ3-6 固形燃料出荷量（年度別）》



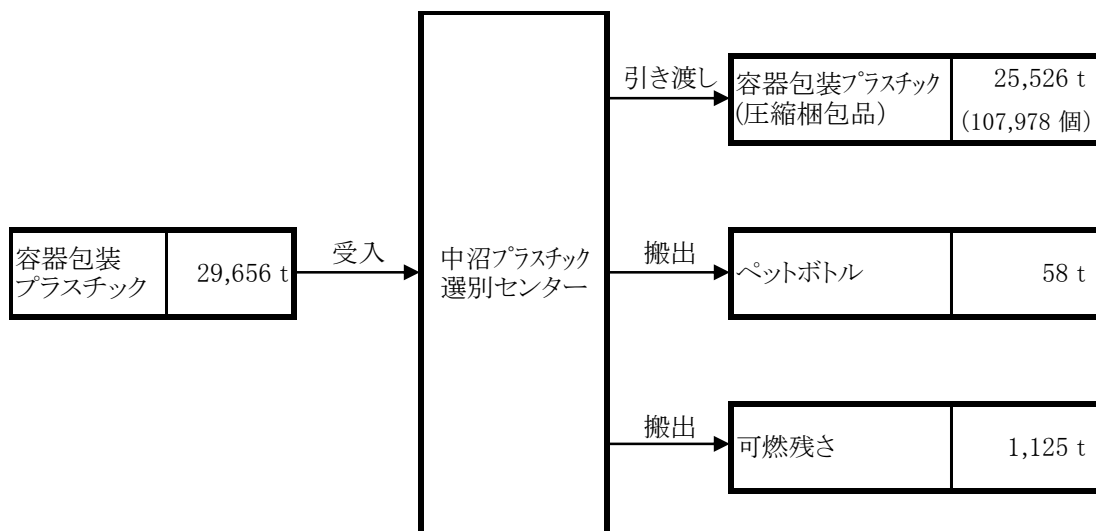
② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (決算額 28,292,828 円)

平成20年10月より、札幌市から「中沼プラスチック選別センター施設管理業務」を受託している。

当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転や残さ運搬などに対する監督業務、選別・圧縮された容器包装プラスチックの品質管理、再商品化事業者等との調整及び引き渡し業務が主体となっている。

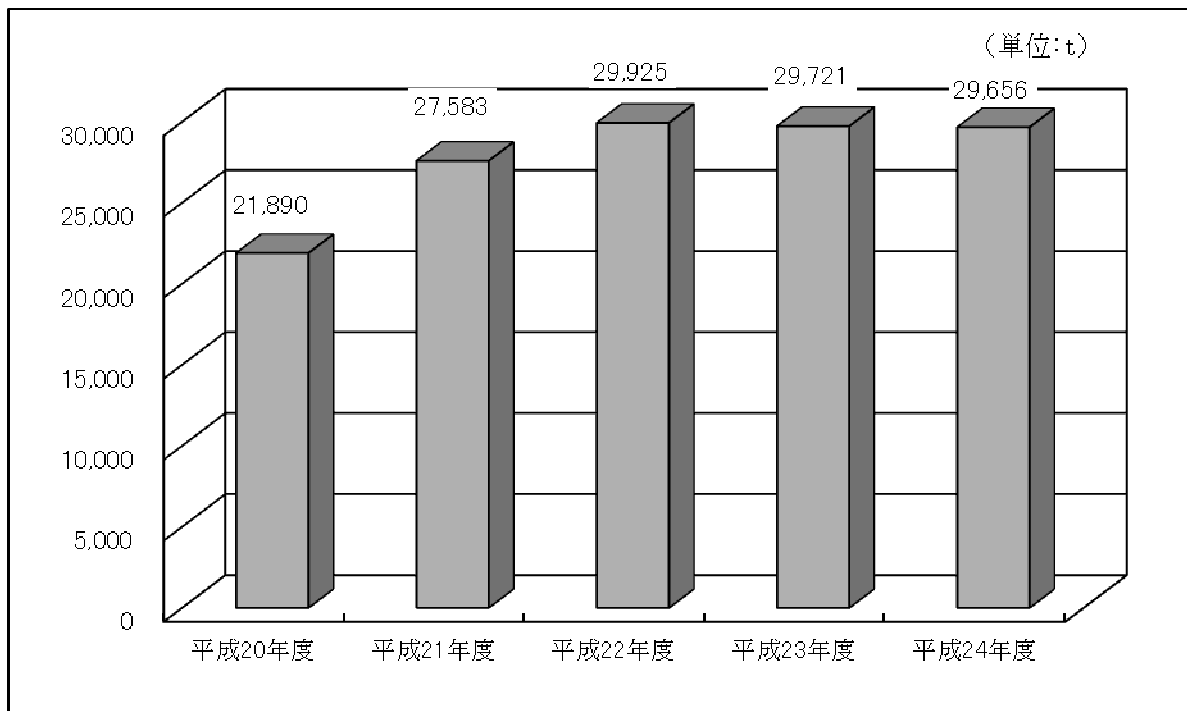
平成24年度の容器包装プラスチック受入量は、計画量29,800tに対し29,656tで、前年度29,721tに比べ0.2%の減少となった。また、選別後に圧縮梱包されて再商品化事業者等に引き渡された量は、計画量25,000tに対し25,526tで前年度25,818tに比べ1.1%の減少となった。

【図3-4 平成24年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】

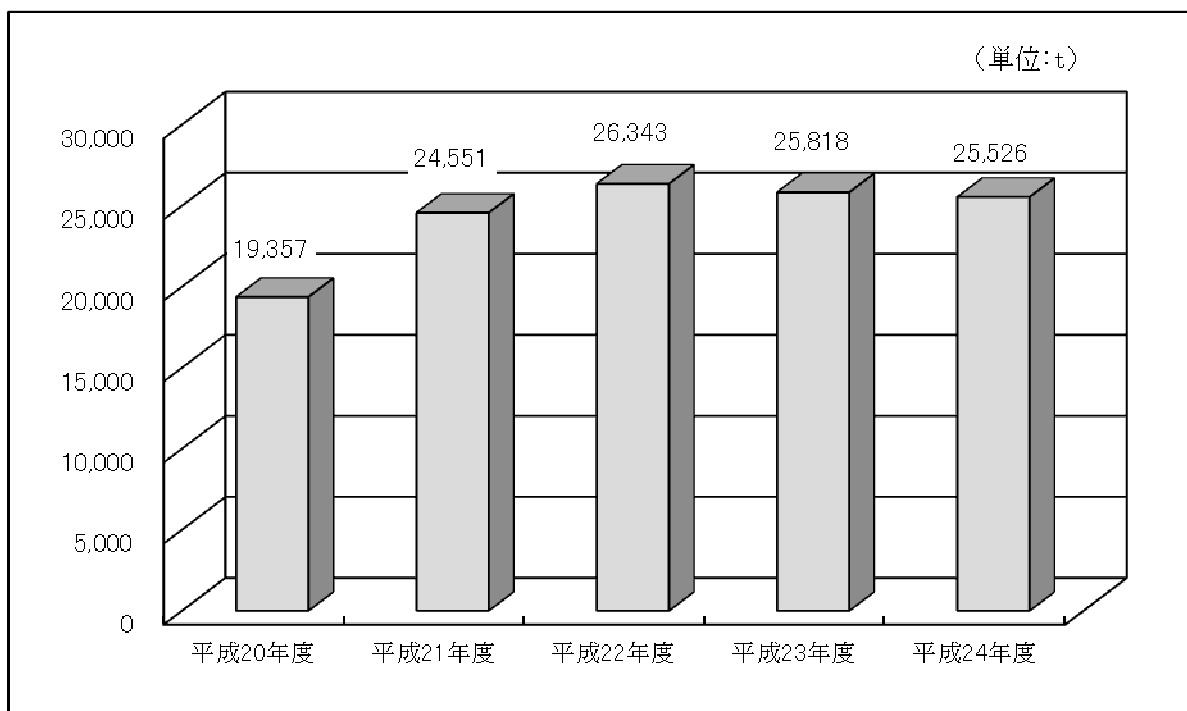




《グラフ 3-7 容器包装プラスチック受入量 (年度別) 》



《グラフ 3-8 容器包装プラスチック(圧縮梱包品)搬出量 (年度別) 》



③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (決算額 14,535,046 円)

平成21年7月より、札幌市から「中沼雑がみ選別センター施設管理業務」を受託している。

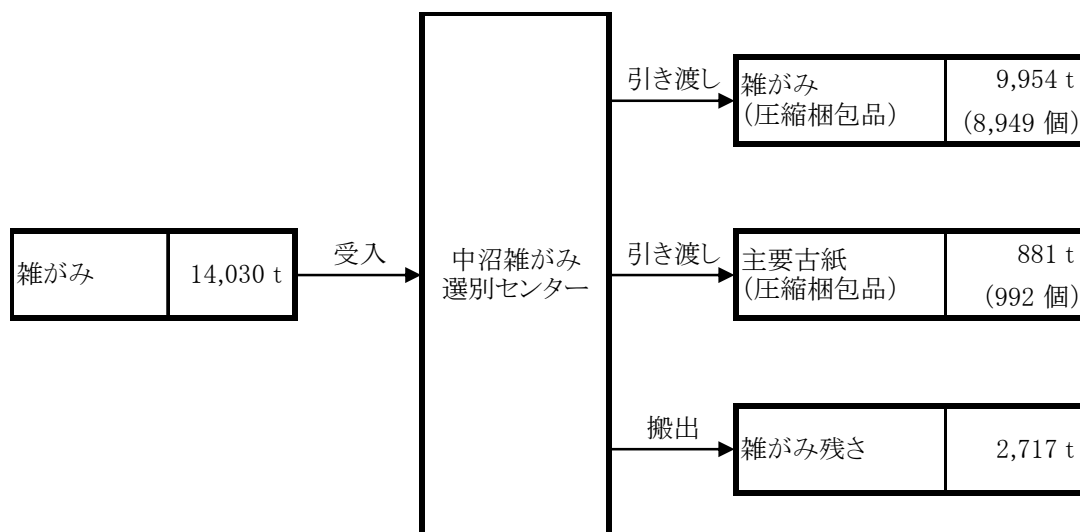
当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転業務などに対する監督業務、分別基準に適合するよう圧縮・梱包された雑がみと主要古紙の品質管理及びリサイクル事業者等との調整及び引き渡し業務が主体となっている。

なお、不適物を取り除く「手選別業務」については、知的障がい者の雇用を促進するために札幌市が福祉団体に業務を委託している。

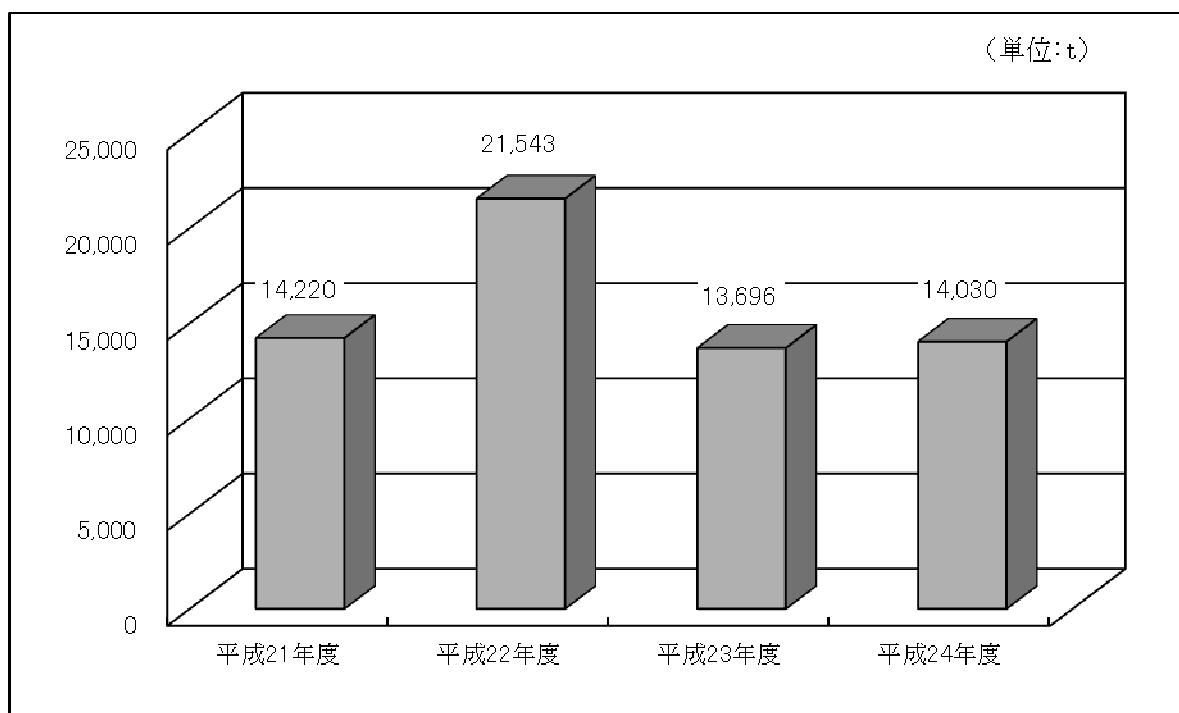
平成24年度の雑がみ受入量は、計画量13,000 tに対し14,030 tで、前年度13,696 tに比べ2.4%の増加となった。

また、選別後に圧縮梱包されてリサイクル事業者に引き渡された雑がみは、計画量9,500 tに対し9,954 tで、前年度10,069 tに比べ1.1%の減少、また主要古紙は、計画量1,000 tに対し881 tで、前年度983 tに比べ10.4%の減少となった。

【図3-5 平成24年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】

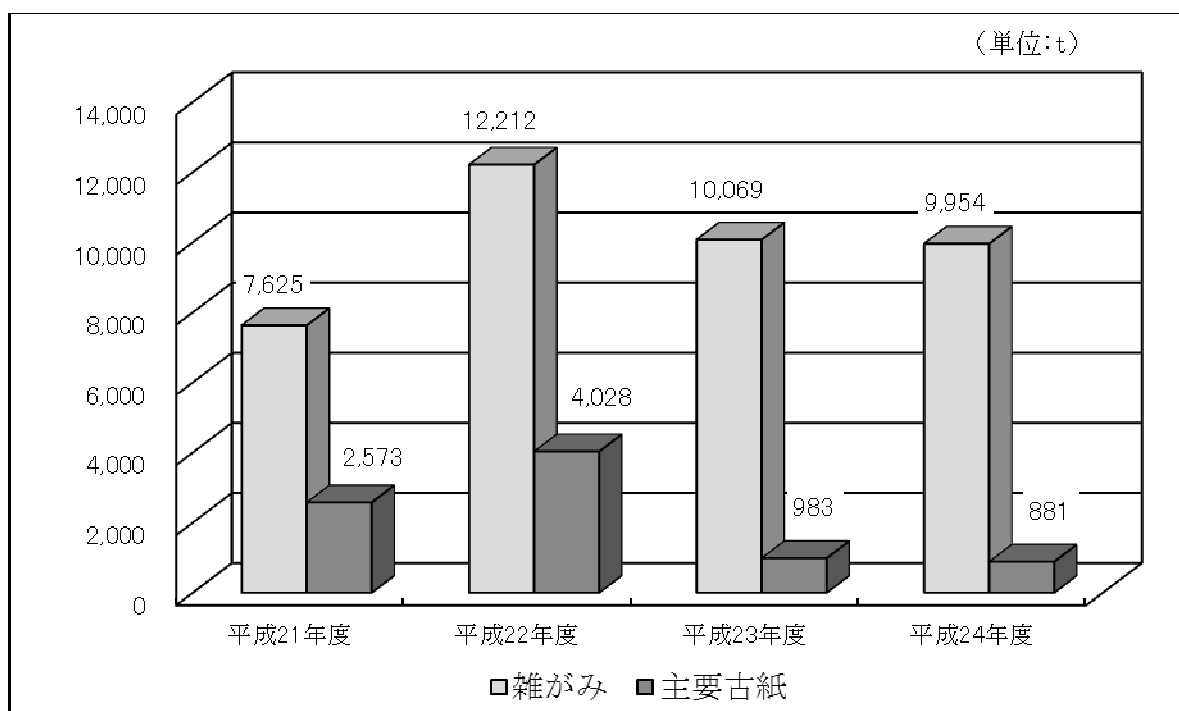


《グラフ 3-9 雑がみ受入量 (年度別) 》



※ 平成 21 年度は、7 月～3 月までの受入量

《グラフ 3-10 雑がみ等搬出量 (年度別) 》



※ 平成 21 年度は、7 月～3 月までの搬出量

④ 札幌市リサイクル団地管理事業（決算額 19,070,388 円）

札幌市から「札幌市リサイクル団地管理業務」を受託し実施した。

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群で、団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体がそれぞれ行っている。

現在、約23haの団地内に、民間処理業者6社、当公社、及び札幌市の9施設が稼働している。

i) 業務内容

- ア リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- イ リサイクル資料館・ふれあいホールの維持管理業務
- ウ 井水供給設備の維持管理業務
- エ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- オ その他管理業務

ii) 見学者実績

平成24年度のリサイクル団地の見学者実績は、見学件数125件、見学者数4,530人であった。

【表3-1 平成24年度 リサイクル団地見学者実績】

	見学件数	見学者数
4月	2件	26人
5月	7件	268人
6月	18件	1,267人
7月	16件	662人
8月	11件	418人
9月	16件	636人
10月	23件	735人
11月	12件	279人
12月	6件	62人
1月	5件	55人
2月	6件	60人
3月	3件	62人
合計	125件	4,530人

【図3-6 札幌市リサイクル団地 施設配置図】



(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 17,435,692 円)

札幌市の大型ごみは、平成9年10月からそれまでのステーション方式から電話申込による戸別収集となり、平成10年1月からは有料制が導入された。

当社は、平成11年4月から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託し実施している。

① 業務内容

大型ごみ、リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整

- i) 札幌市及び電話受付業務受託者との連絡調整
- ii) 収集車両台数の調整、未収集物に係る連絡調整
- iii) 電話受付業務受託者が回答困難な苦情・問い合わせ等への対応

② 平成24年度実績

- i) 収 集 量                    10,855 t    (計分量: 11,000 t)
- ii) 受付件数                461,834 件 (計分量: 490,000 件)
- iii) 収集件数               309,046 件 (計分量: 325,000 件)
- iv) 収集個数                752,738 個 (計分量: 775,000 個)

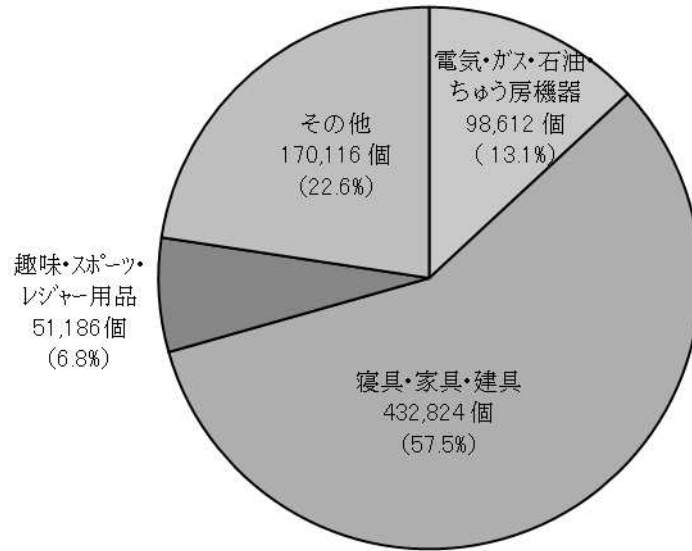
【表3-2 平成24年度 業務実績】

	収集量(t)	受付件数	収集件数	収集個数
4月	1,036	47,645	29,893	73,401
5月	1,142	46,903	33,175	84,101
6月	937	39,926	27,147	67,612
7月	891	42,814	26,398	64,544
8月	1,038	39,759	29,951	72,857
9月	922	40,778	26,106	64,149
10月	1,134	50,550	32,852	80,063
11月	1,057	40,879	30,107	72,631
12月	825	33,040	23,902	53,094
1月	473	22,317	13,977	29,248
2月	498	21,343	13,745	31,397
3月	902	35,880	21,793	59,641
合計	10,855	461,834	309,046	752,738

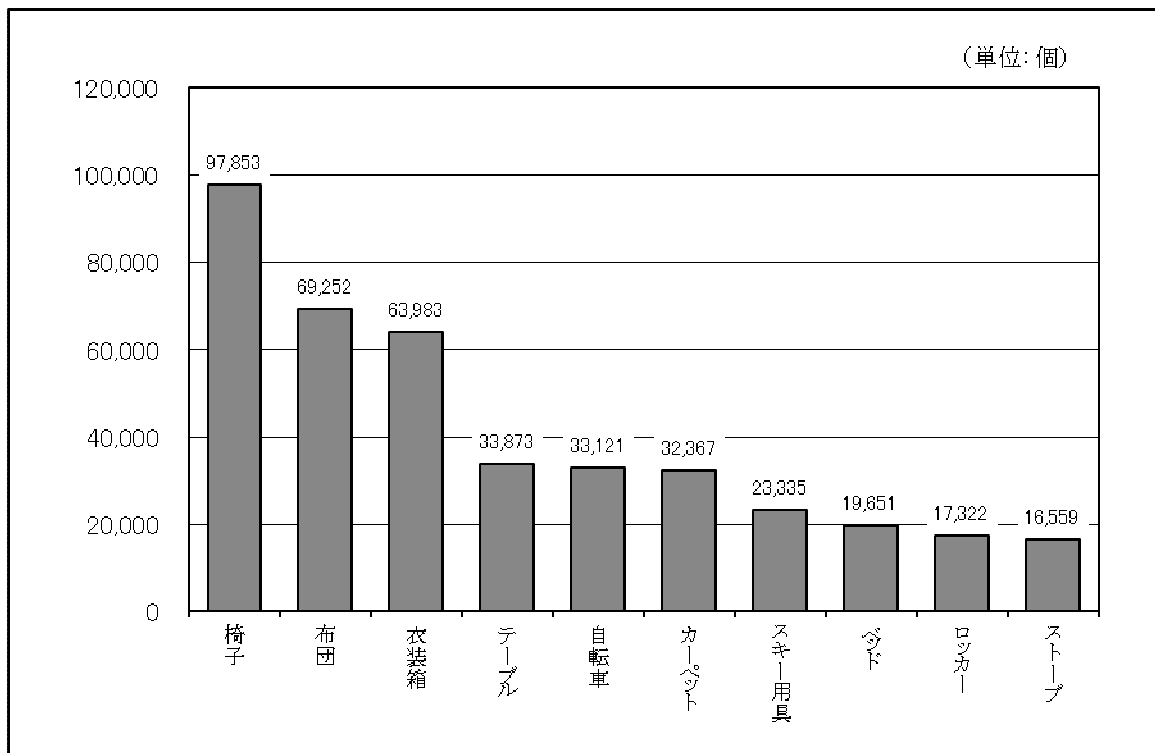
【表3-3 主な収集品目(上位10品目)】

順位	品 目	個 数	割 合
1	椅子	97,853	13.0 %
2	布団	69,252	9.2 %
3	衣装箱	63,983	8.5 %
4	テーブル	33,873	4.5 %
5	自転車	33,121	4.4 %
6	カーペット	32,367	4.3 %
7	スキー用具	23,335	3.1 %
8	ベッド	19,651	2.6 %
9	ロッカー	17,322	2.3 %
10	ストーブ	16,559	2.2 %

《グラフ 3-11 収集品目大分類内訳》



《グラフ 3-12 主な収集品目（上位 10 品目）》



#### 4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 5,503,866,799 円)

事業系ごみの収集運搬事業は、全市域における事業系ごみの減量・リサイクルの推進を効率的かつ安定的に進めるために、平成6年4月より当公社が一元的に実施している。これまでの総合的な取組みにより、平成24年度のごみ総収集量に対するリサイクル率は、容積ベースで23.0%となっている。

平成24年度のごみ収集量は、収集運搬料金収入の基礎になる容積ベースで前年度比1.2%の減少となったが、処分手数料支払いの基礎となる重量ベースでは、ここ2年間下げ止まり傾向を示し、24年度は1.2%の増加に転じた。

また、収集作業の効率化に取り組んできたが、平成24年度は収集効率の低下していた食用缶について、顧客の協力を得ながら収集ルートなどを集約し減車を実施した。

平成24年度末現在の伝票収集による契約件数は9,863件、プリペイド袋収集による契約件数は21,756件となっている。

##### (1) ごみ収集量について

###### ① 総収集量

容積ベースでは、1,054,457 m<sup>3</sup>と前年度1,066,990 m<sup>3</sup>に対して1.2%の減少、重量ベースで169,849 tと前年度167,915 tと比較して1.2%の増加となっている。

###### ② 廃棄ごみ収集量 (可燃用プリペイド袋等を含む一般ごみ)

811,483 m<sup>3</sup>と前年度の818,383 m<sup>3</sup>に対して0.8%の減少となっている。

###### ③ リサイクルごみ収集量

###### i) 資源化ごみ (木くず、紙くず、廃プラスチック類)

固形燃料 (RDF) の原料としてごみ資源化工場に搬入した。

139,990 m<sup>3</sup>と前年度の146,648 m<sup>3</sup>に対して4.5%の減少となっている。

###### ii) 生ごみ

飼料化リサイクルセンター、石狩市の生ごみリサイクル施設及び定山溪の生ごみリサイクル施設へ搬入し、それぞれ飼料や堆肥の原料としてリサイクルが行われた。

また、札幌市教育委員会の「さっぽろ学校給食フードリサイクル」への協力のため、市内180校の小中学校で生ごみの分別収集を実施した。

56,736 m<sup>3</sup>と前年度54,712 m<sup>3</sup>に対して3.7%の増加となっている。

###### iii) 不燃用プリペイド袋の選別 (少量排出事業所)

不燃用プリペイド袋内に混入している、びん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物をリサイクルするため篠路資源化センターへ搬入した。

26,237 m<sup>3</sup>と前年度26,370 m<sup>3</sup>に対して0.5%の減少となっている。

###### iv) 剪定枝

剪定枝、幹、根などの樹木を篠路資源化センター内にある剪定枝等処理施設へ搬入し、堆肥、畜舎の敷きわら及び燃料チップにリサイクルが行われた。

969 m<sup>3</sup>と前年度1,552 m<sup>3</sup>に対して37.6%の減少となっている。

###### v) びん、缶、ペットボトル

中沼資源選別センター及び駒岡資源選別センターに搬入した。

19,042 m<sup>3</sup>と前年度20,877 m<sup>3</sup>に対して8.8%の減少となっている。

###### ④ 家庭系パソコンのリサイクルは、パソコン本体等181台、ブラウン管ディスプレイ等39台の合計220台であった。



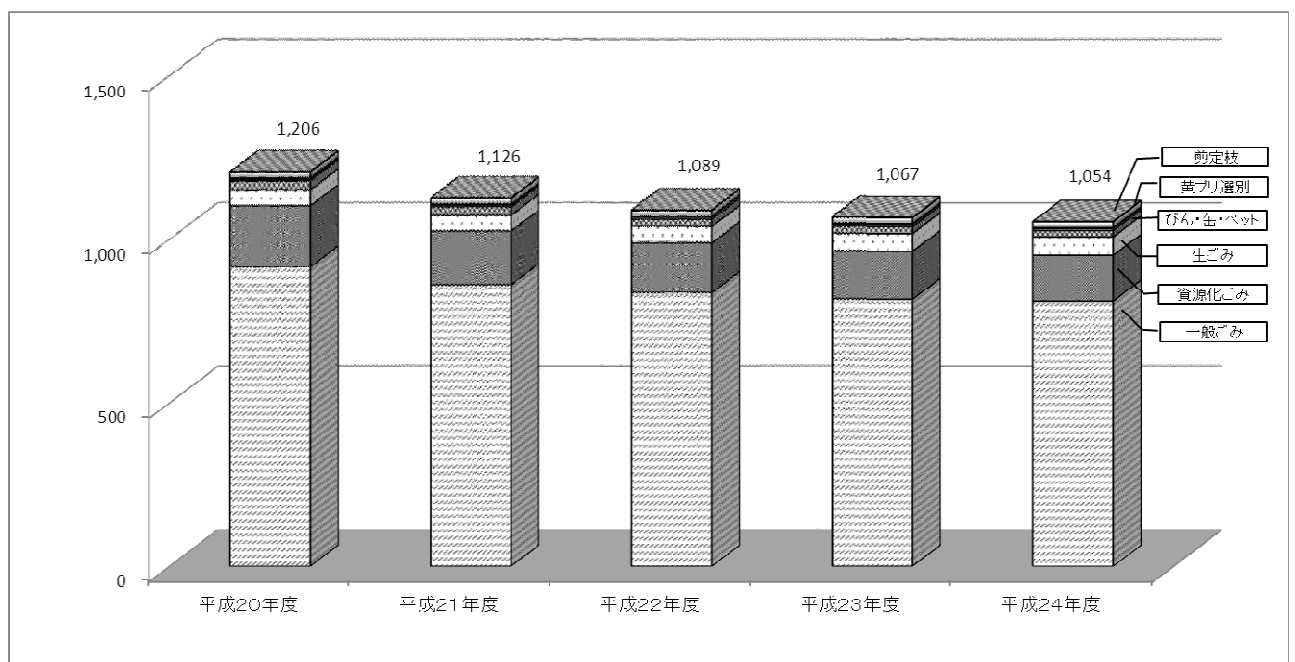
【表4-1 平成24年度 収集量（容積）】

(単位：m<sup>3</sup>)

項目 月	総容積 (m <sup>3</sup> )	内 訳					
		廃棄ごみ	リサイクルごみ				
			一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プラスチック袋	剪定枝
4月	87,058	66,377	12,694	4,207	2,236	6	1,538
5月	89,357	68,214	11,910	5,164	2,315	133	1,621
6月	87,364	66,961	11,816	4,768	2,180	30	1,609
7月	91,871	70,577	11,887	4,928	2,405	82	1,992
8月	91,246	70,991	10,650	5,140	2,371	170	1,924
9月	86,567	66,678	10,904	5,013	2,152	88	1,732
10月	93,746	71,779	12,470	5,179	2,357	301	1,660
11月	88,642	68,397	11,856	4,634	2,145	124	1,486
12月	92,346	71,430	12,509	4,731	2,137	32	1,507
1月	80,445	62,732	10,230	4,109	2,053	0	1,321
2月	78,123	60,287	10,476	4,229	1,829	0	1,302
3月	87,692	67,060	12,588	4,634	2,057	3	1,350
合 計	1,054,457	811,483	139,990	56,736	26,237	969	19,042
平 均	87,871	67,624	11,666	4,728	2,186	81	1,587

《グラフ4-1 収集量（容積）の推移》

(単位：千m<sup>3</sup>)



【表4-2 平成24年度 収集量 (重量)】

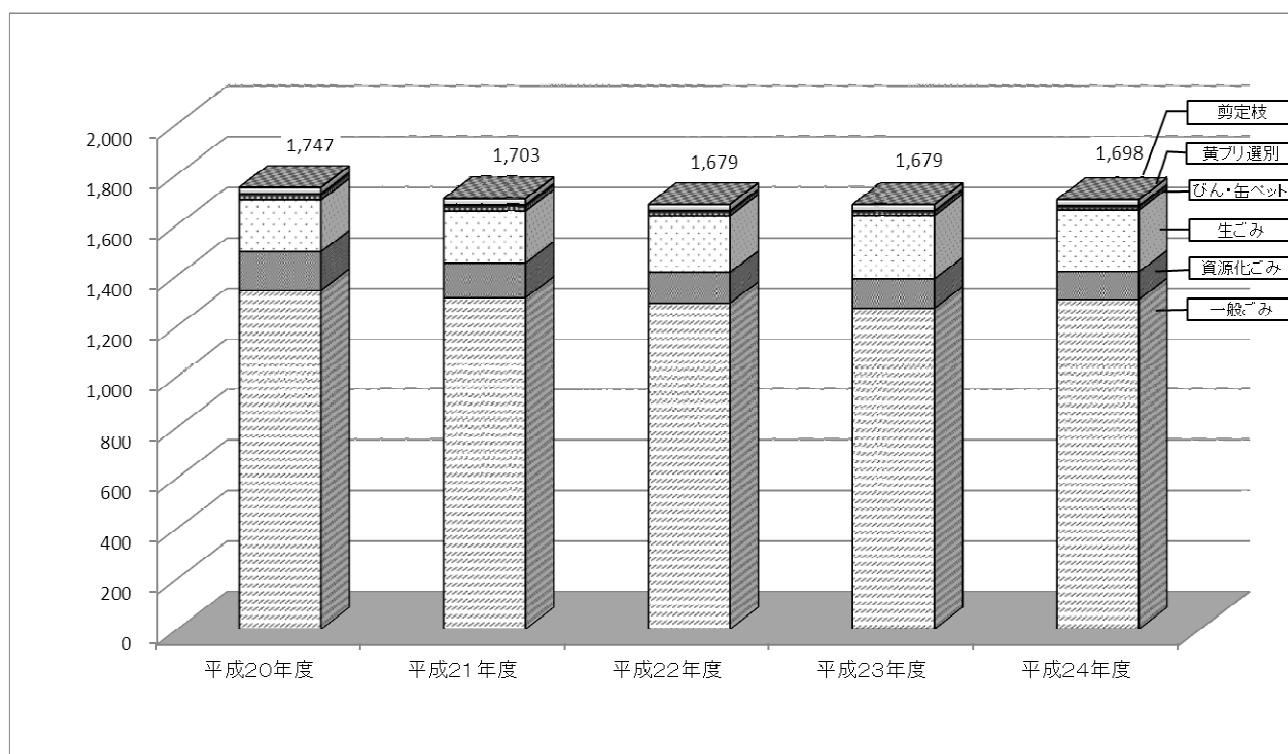
(単位：t)

項目 月	総重量 (t)	内 訳					
		廃棄ごみ		リサイクルごみ			
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶・ペットボトル
4月	13,588	10,220	1,048	1,969	210	1	140
5月	14,236	11,605	881	1,381	215	10	144
6月	13,862	10,458	882	2,183	195	3	141
7月	14,540	11,131	906	2,120	208	5	170
8月	14,936	11,331	820	2,420	203	12	150
9月	14,216	10,736	814	2,346	183	7	130
10月	14,824	11,420	925	2,128	207	16	128
11月	14,053	10,602	893	2,226	198	11	123
12月	15,160	11,885	1,026	1,890	209	5	145
1月	13,412	10,272	842	1,965	205	0	128
2月	12,746	9,852	825	1,766	179	0	124
3月	14,276	10,804	1,086	2,073	192	1	120
合 計	169,849	130,316	10,948	24,467	2,404	71	1,643
平 均	14,154	10,860	912	2,039	200	6	137

※生ごみは平成9年度から収集開始

《グラフ4-2 収集量 (重量) の推移》

(単位：百 t)



(2) ごみ重量計量システムの実証実験

「重量計量システム」を搭載した収集車両2車種7台により排出事業者単位の重量データの蓄積を実施した。

(3) プリペイド袋の販売

少量排出事業所向けに、プリペイド方式のごみ袋の販売を行っている。

平成24年度の販売数は417,663セットと昨年度実績355,057セットに対して17.6%増加した。これは平成25年4月からのごみ処理料金改定に伴う2月から3月における駆け込み先買いの影響によるものと思われる。

【表4-3 平成24年度 プリペイド袋販売実績】

(単位：セット)

販 売 店	販売数(セット)	備 考
市 民 生 協	36,050	2 5 店 舗
セイコーマート	225,420	3 0 3 店 舗
すずらん物産	66,044	—————
市庁舎販売店等	7,568	1 2 店 舗
商店街組合等	6,870	6 団 体
宅 配	69,930	佐 川 急 便
公 社 直 販	5,781	営業社員持参等
計	417,663	

【表4-4 年度別 種類別プリペイド袋販売実績】

(単位：セット)

項目 年度	20リットル		40リットル		総販売数
	可燃	可燃	可燃	不燃	
平成24年度	13,313	320,651	83,699		417,663
平成23年度	10,721	276,166	68,170		355,057
平成22年度	9,477	265,960	65,068		340,505
平成21年度	7,809	215,779	56,929		280,517
平成20年度	8,457	337,878	91,682		438,017
平成19年度	4,679	289,275	61,809		355,763

平成24年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成25年6月

一般財団法人札幌市環境事業公社